

● Voice ————— 利用している人の声



琴畑 サワさん  
土淵町、82歳

利用するたび、心が温まるよ

地域の皆さんに力強く支えてもらっておりやんした。運転手さんに優しく声をかけでもらって、交通支援を利用するたびに心が温まる思いだよ。社会福祉協議会の人、丸ごと相談員さん、民生委員さん、地区センターの人たちからも温かいご配慮を。地域の皆さんのお陰で助けられました。大変ありがたい。幸せだなあと思っておりやんした。

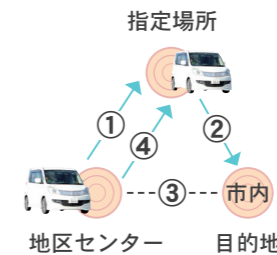


1\_ 出発前、土淵地区センターで打ち合わせをする運転手の立花留蔵さんと事務局の阿部フク子さん 2\_ 交通支援を利用した琴畑さんと運転手の似田貝三男さん

● 土淵町まちづくり協議会  
地域交通対策支援事業の概要

運行の流れ

- ①地区センターから利用者 最寄りの指定場所へ
  - ②指定場所から目的地へ
  - ③公共交通などを利用し、地区センターへ
  - ④地区センターから利用者 最寄りの指定場所へ
- ◆利用対象者 土淵町内の移動手段がない世帯  
◆主催 土淵町まちづくり協議会(主管:土淵町社会福祉協議会・土淵町地域交通対策支援事業検討委員会)  
◆問い合わせ 土淵町まちづくり協議会(☎62-2837)



まず、やってみる。

地域のチカラ

# 地域で支える生活の足。 町民、立ち上がる

土淵町で長年の課題だったのが、交通・足の問題。課題解決に向け苦節2年半、町民で運営する無償の送迎支援が始まりました。日常生活に欠かせない交通、地域がその一翼を担っています。

市内初、町民による「交通対策支援」始まる

「今日は、琴畑さんを病院まで」。お昼の鐘が鳴る12時、土淵地区センターで運行スケジュールを確認。運転手を務める・似田貝三男さん(土淵町)がハンドルを握り、土淵町琴畑地区へと出発しました。地区センターから琴畑さんの自宅付近まで約12キロ。最寄りのバス停から山沿いに、坂道が5キロ程続きます。バス停から手元の時計で約6分。歩くには険しく長い道のりです。

交通、足の問題が長年の課題。対策として昨年4月に始まったのが「地域交通対策支援事業」。町民ボランティアが、町内の移動手段がない人を無償で目的地へと送る市内初の仕組みです。事業は、土淵町社会福祉協

議会が主体となって立ち上げました。地域住民で構成する組織が中心となり、市の「みんなで築くふるさと遠野推進事業補助金」を活用し運行しています。

個人の善意が町の仕組みに

交通支援の仕組みができるまでは、地域住民が出勤時に送るなど、善意で支えています。「地域でなんとかならないかな」。そんな声も……。町社会福祉協議会が令和2(2020)年1月末に行った困りごとアンケートの結果にも、交通支援を望む声が寄せられていました。「バス停まで行けない」「免許返納後が心配」など、理由はさまざまです。それから約2年半、市内外の事例を学び、検討を重ねて町民による交通支援の仕組みが形になりました。丸ごと相談員として事業立ち上げに関わった小山剛さん(市社福祉協議会)は、「必要性は分かっているけど担い手は少ない。でも、何とかしようと思う人が一人でも増えていけば前に進める」と話します。事務局の阿部フク子さん(土淵町)は、「運転手は現在7人、一緒に活動してくれる人を募集しています。利用したい人も相談してほしい」と呼びかけます。



恩西琴自治会会長  
土淵町1区自治会副会長  
佐々木 義一さん  
(土淵町、68歳)

● interview

できる時に、自分にできることを  
義務に感じない軽さも大事

若い時は仕事と子育てに忙しく、地域を見向きもしませんでした。退職後、地域で何か力になれば、そんな思いで自治会活動に加わりました。

私たちの地域には、最寄りのバス停から数キロ離れた場所に暮らす高齢世帯があります。区長だった頃、個人的に送迎をしたことも。皆さん会えば、「申し訳

ない申し訳ない」と言います。迷惑を掛けていると思っているその心苦しさを取り払ってあげたいと思います。

ボランティアが義務になってしまっただめですね。できる時に、自分にできることを……。継続していくためには、そういった軽さが大事。そのためにも、やっぱり支える人の数が大切です。

地域の力が支援実現の原動力  
課題を検討しながら、まずはやってみる

アンケートで町民の困りごとを確認しました。多かったのが交通のこと。地域で支えなければと思いました。それからさまざまな先進事例を勉強しました。活動が継続できるよう有償の仕組みを検討しましたが、いくら考えても法律上、断念するほかありませんでした。無償でも実現できたのは、何より運転手を引き受

けてくれた人たちがいたこと。どうにかして地域のお手伝いを。そう考える人たちがいたこと。地域の力ですね。

活動の基本は地域福祉。困っている人を助けることです。予測される課題を頭でどうするこうするではなく、まずはやってみる。実績を重ねながら、今後の運行を考えていきたいと思っています。

運営主体&発起人の声



土淵町まちづくり協議会副会長  
土淵町社会福祉協議会会長  
留場 和夫さん  
(土淵町、72歳)